

6 災害発生時の応急手当

大地震が起こった場合には、建物の倒壊や落下物などにより、多くの負傷者の発生が予想されるので、下記のような対応が必要である。

(1) 自分がけがをした場合

- ① あわてて一人で動かない。動き回るとひどくなる。
- ② すぐ大声を出して、近くの人に助けを求める。

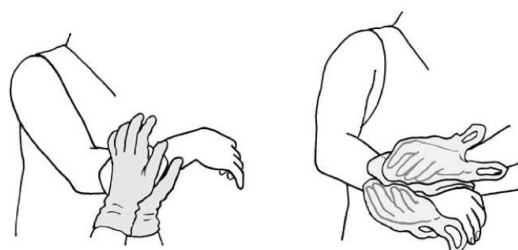
(2) けがをしている人がいた場合

- ① 救急車や医者に連絡する。または、近くの人にけがの様子を知らせ、救急車や医者への連絡を依頼する。
- ② 次のような簡単な応急手当をする。

呼吸や心臓が止まって生命にかかわる状態の負傷者や、救急車や救護班が到着する前に容体が急変する負傷者がいる。

このようなとき、迅速・適切な手当てをすれば命を救うことが可能になる。

また、応急手当として、止血や骨折、やけどなどの手当てとともに、心肺蘇生法（AEDの取り扱いを含む）にも慣れておくことが大切である。



ビニール手袋を着用して
ガーゼを圧迫する

手袋の代わりにビニール袋を
利用する

出血している場合（止血方法）

◆ 直接圧迫止血

- ① 出血している傷口をガーゼやハンカチなどで直接強く押さえ、しばらく圧迫する。片手で止血できない場合は、両手で圧迫したり、体重をかけて圧迫したりして止血する。
- ② ガーゼなどが血液で濡れてくるのは、出血部位と圧迫位置がずれている、または、圧迫する力が足りないためである。
- ③ 止血を行うときは、感染防止のために血液に直接接触ないようにし、できるだけビニールやゴムの手袋を使用する。

【イラストの出典〔JRC G2010〕】

捻挫や打撲をした場合

◆ 捻挫

- ・ 冷水または氷のうで冷やし、安静にする。

◆ 打撲

- ・ 打撲部位は、骨折、脱臼等と同様に安静にして、原則として冷やす。
※初期には、動かしたり温めたりすると、内出血や腫れがひどくなるので注意する。

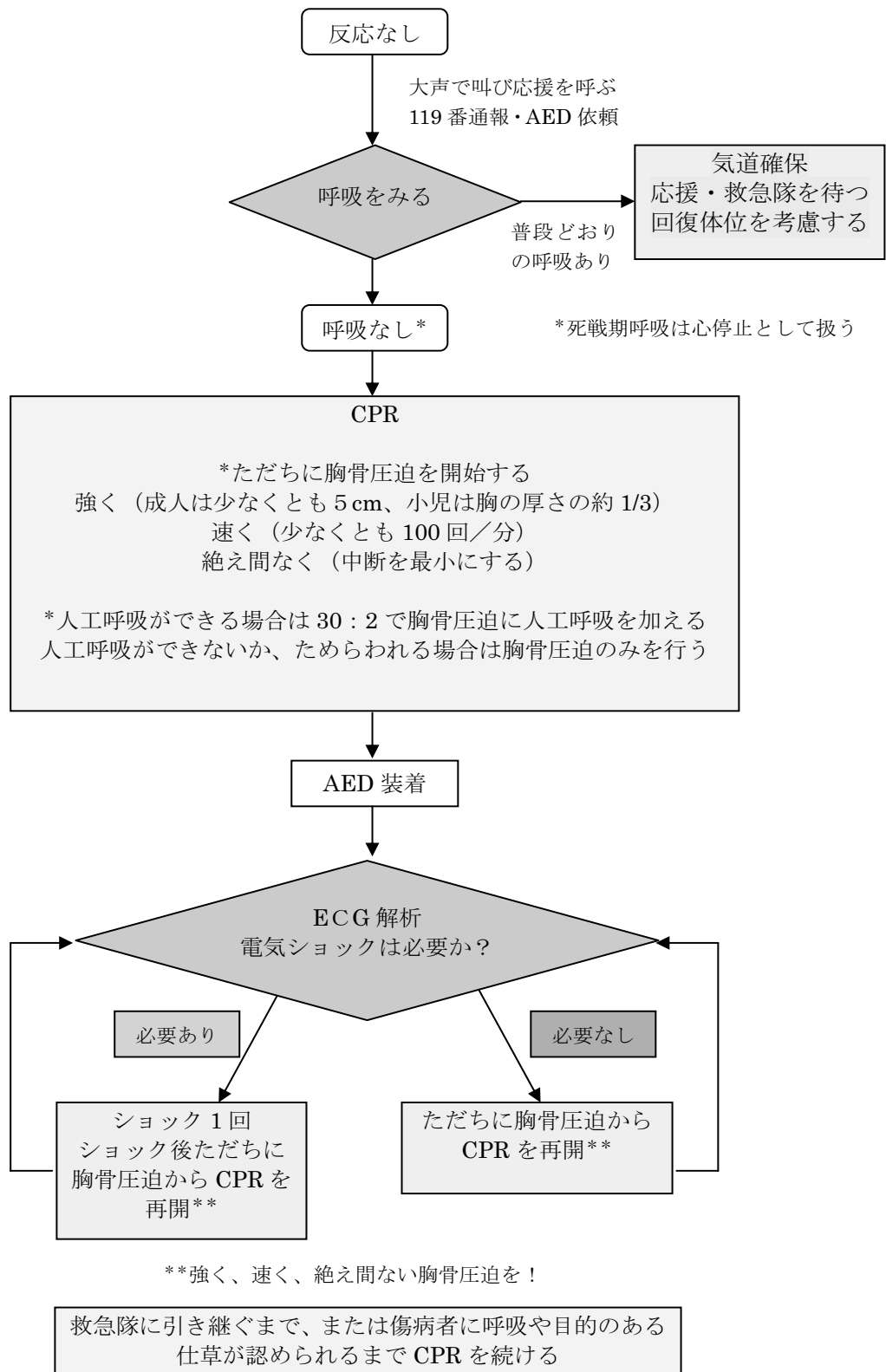
骨折した場合

- ① 全身および患部を安静にし、添え木や三角巾で患部を固定する。
- ② 手足に変形がみられる場合は、無理に戻そうとしない。

火傷をした場合

- ① すみやかに水道の流水で痛みがとれるまで冷やす。
- ② 氷や氷水を使用する場合は、10分以上の冷却はさける。
- ③ やけどの部位が衣服で覆われていても、そのままにして急いで冷水をかける。

一次救命処置の手順（心肺蘇生法とAEDの使用）



【出典：JRC G2010】